

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

平成 26 年度活動報告書・平成 27 年度事業計画概要

センター	名称: :ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト: http://gender.soc.hit-u.ac.jp/ 学内活動拠点・同電話番号: 貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492
報告者 (センター代表者)	氏名: 伊藤るり 電子メール: r.ito@r.hit-u.ac.jp
報告書提出年月日	2015 年 4 月 13 日

平成 26 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2014年度は、代表(伊藤るり)、教育部門総括1名(貴堂嘉之)、研究部門総括3名(太田美幸、坂なつこ、森千香子)、総務・財務部門総括1名(佐藤文香)と、共同推進者14名(井川ちとせ、大河内泰樹、尾崎正峰、木本喜美子、小井土彰宏、坂元ひろ子、中野聡、山田哲也、越智博美、河野真太郎、川口大司、竹内幹、イ・ヨンスク、中井亜佐子)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

ジェンダー教育プログラム(GenEP)部門では、2007年度より全学的なプログラムを提供してきた。2014年度は、学部基幹科目群を9科目、大学院基幹科目群を4科目、学部連携科目群として18科目、大学院連携科目群として9科目、合計40科目を提供した。学部生のGenEP科目履修者数は総計3443名であった。全体としてプログラムの科目群はより充実し安定した運営を行うことができているといえる。また、2012年度に開始した女性学・女性史研究者の第一世代に対するライフヒストリーの収集・記録プロジェクトを継続する形で、先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来—女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」を開講し、12名が登録した。

2.2 研究実績

- 本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績の一部を掲載する
- 伊藤るり「モダンガール現象と女たちの新しい卓越感覚」(第II章 女たちの新しい表現)『沖縄県史 各論編7 女性史』(2015年近刊)
 - 貴堂嘉之、コラム「軍事化論の射程—「慰安婦」問題の置かれている歴史的位相—」歴史学研究会、日本史研究会編『「慰安婦」問題を/から考える—軍事性暴力と日常世界—』岩波書店、2014年。
 - 貴堂嘉之「移民国家アメリカの優生学運動—選び捨てるの論理をめぐる—」『歴史評論』4月号2015年
 - 佐藤文香、「軍事化とジェンダー」『ジェンダー史学』第10号, pp.33-37,2014年
 - 佐藤文香・兪炳完, 2014, 「여성과 자위대 —카무플라주하는 여성의 역할과 젠더주류화 (女性と自衛隊—カモフラージュする女性の役割とジェンダー主流化)」(共著)『일본비평 (日本批評)』第11号, pp.82-109, 서울대학교 일본연구소 (ソウル大学日本研究所)。
 - 太田美幸「スウェーデンにおけるセツルメント運動の歴史と現在」松田武雄編『社会教育福祉の諸相と課題—欧米とアジアの比較研究』大学教育出版、2015年3月。
 - 森千香子「ヘイト・スピーチとレイシズムの関係性」金尚均編『ヘイト・スピーチの法的研究』法律文化社、2014年9月

2.3 外部機関等との連携、社会貢献の実績、外部資金の獲得等

○外部機関等との連携

(1) 外部講師を招聘し、下記の講演会を開催した

①公開レクチャー・シリーズ(第27回)2014年6月13日

「戦時、日中映画のモダニズムとジェンダー」司会:坂元ひろ子

第1レクチャー「モダン・ライフ映画が提起するもの—見えない中国・日本社会の二重構造」

講師:宜野座菜央見さん(明治大学・大阪芸術大学兼任講師:近代日本史)

第2レクチャー「越境する映画、引き裂かれた表象—戦時日中映画交渉に見るジェンダー」

講師:晏妮さん(本学社会学研究科客員教授:比較映画史、映像学)

ディスカッサント:島村 輝(フェリス女学院大学文学部教授:日本近代文学)

②公開レクチャー・シリーズ(第28回)2014年11月21日

「日本占領と性—性暴力、売買春から親密な関係まで」司会:佐藤文香

第1レクチャー「日本占領とジェンダー—米軍・売買春と日本女性たち」

講師:平井和子さん(一橋大学社会学研究科特任講師)

第2レクチャー「パンパンとは誰なのか—キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性」

講師:茶園敏美さん(京都大学学際融合研究推進センターアジア研究教育ユニット(KUASU) 研究員)

③公開レクチャー・シリーズ(第29回)2014年12月12日

「いま、男子の性は～私は大学生に何を学ばせようとしたか」司会:坂なつこ

講師:村瀬幸浩さん(日本思春期学会名誉会員、“人間と性”教育研究協議会幹事、季刊『SEXUALITY』副編集長)

④公開レクチャー・シリーズ(第30回)2015年2月2日

「親密な関係にかんする市民権——異国籍同性カップルが日本で子どもを産み育てる場合」司会:宮地尚子

講師:青山薫さん(神戸大学国際文化学術研究科教授)、リル・ウィルスさん(心理カウンセラー)

[主催]平成26年度科学研究費プロジェクト『トラウマとジェンダーの相互作用:精神病理・逸脱・創造性』

○社会貢献

公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っている。毎回のレクチャーには常に50名近い参加者を集めており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

○外部資金獲得実績

なし

平成27年度事業計画概要

3. 平成27年度の事業計画

平成27年度は、下記の3点を行うこととする。

(1) ジェンダー教育プログラムの安定的な運営を行う。

(2) 共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。

(3) 先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来—女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」の2年目としてさらに調査を進める。

4. 平成27年度における組織改廃計画

本センター規約(2010年4月1日施行)に基づき、2015年1月28日の運営協議会において、次年度の代表および各部門総括の選出を行った。代表として佐藤文香、教育部門総括として太田美幸、研究部門総括として伊藤るり、貴堂嘉之、森千香子、財務・総務部門総括として坂なつこが選出された。また、共同推進者として、経済学研究科から横山泉、商学研究科からChris Ahmadian、言語社会研究科から井上間従文、障害学習支援室から柘植道子(特任准教授)、法学研究科から長塚真琴が新規に加入する。

5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)